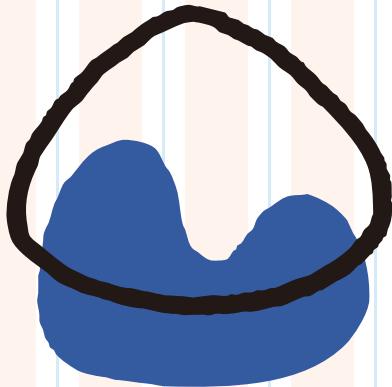


みんなで作る

新たな対話



地域交流施設

おにぎり
べんち

△NIGIRI ■ENCH



地域交流施設の建築に携わっていただいている

濱田建設株式会社 代表取締役の濱田啓吾さん



新たな対話のはじまり

地域の座談会

『私たちの居場所』

中島美由紀さん・山川麻衣さん×西本サチ子さん・田中民子さん
(てとてのママサロン)

新たな対話のは

Written by Tomoyuki Sugahara
医療法人CLSすがはら
専務理事



医療法人CLSすがはらの敷地内に現在建設中の地域交流施設「ONIGIRI BENCH」。

今まで地域交流の場として利用されてきた「てとての広場」を拡張し

誰でも立ち寄れるオープンな公共空間として

また様々な使い道を地域の皆さんと考えながら立ち上げる新たな交流の場です。

新型コロナウイルス感染症拡大による影響がまだまだ大きい中

医療法人として、そして地域人として何ができるのか

建物とその取り組みを通じて探索していこうと思います。



じまり



「新しい施設は誰もが利用できる場所にしたい」と思いました。

よくよく考えてみると「医療法人CLSすがはら」のサービスというものは、医療にせよ、介護にせよ、福祉にせよ“目的”が明確にあって使われるものです。でも目的が明確でなければ使えないというのは、とても大きな問題を抱えていると思うのです。

どういうことかというと、CLSすがはらのサービスを利用する人の多くは、なんらかの“不安”や“心配”を抱えていると思います。そんなときに例えばこれから暮らしについて適切に考えたり、行

動したりするのはなかなか難しいことです。大事なことであればあるほど、穏やかな気持ちでじっくりと向き合ったり、考えたりすることが大切なはずです。

「元気なときに病気になったときのことを考えられるの?」「若いときに歳を取った自分を想像できる?」そう思う人は多いでしょう。私も皆さんと同じです。人間万事塞翁が馬とは良いいたもので、先のことをあれこれと考えるのは難しいものです。私は「それならみんなで話ができたらしいよなあ」と思ったのです。

未来を一人で考えるなんて難しくてできないけれど、誰かと話

をするキッカケがあればできるかも知れないと。そこで冒頭の“誰もが利用できる場所”をここにつくって、みんなで気ままに話せるようにしようと考えました。いろんな人とつながり、話をする中で少しずつ自分のことを考えてみたり、誰かの話を聞いているうちに自分のことを振り返ったり。そんなことができれば、私たちもより良い地域との関わり方ができるのでは、thoughtたりするのです。

考えてみれば、誰にでも解放された場所というのは実は、ないように思えます。もちろん、地域の誰もが利用できる公共施設はいくつもあります。しかしここで言い



▲2021年11月竣工予定の地域交流施設ONIGIRI BENCH（おにぎりべんち）の計画ベース。他に就労支援や児童発達支援なども同建物内に計画されている

たいのは、“誰もが利用しようと
思える”場所はあるか？という意
味です。

例えは公園があるとしましょう。
ここ1年でその公園を利用した
人もいれば、全く利用しない人も
います。これはとても大切な話で、
別に目的がなくても公園には來
ていいはずですが、使う人も、そう
でない人もいる。公園をよく使う
人はそこが“自分の居場所”にな
っているからでしょうか。お金
がかからてもカフェが好きとい
う人もいるだろうし、外に出るより
家の中がいいという人もいるで
しょう。それは各々にとって、居
心地の良い場所は異なるとい
うことでもあります。いずれにせよ

人にとって落ち着く場所、安心で
きる場がとても大切なのは間違
いありません。

では、どうすれば人は“場所”を
“居場所”に変えることができるの
でしょうか。私はそのポイントが
“つながり”にあると考えています。

その場にいる人が自分を受け
入れてくれたと感じるとき、または
人がいなくともその空間が自分を
受け入れてくれたように感じられ
るとき、人は心地良さを感じます。
「あなたを受け入れます」と言葉
にして言われなくとも、その場の
空気がその人にとって「自分を受
け入れてくれた」と感じられたか
どうかです。

ですが残念なことにどんな“場
所”でも接点を持つ機会がな
ければ、そこが居心地が良いかど
うかも分かりません。治療や介護
などの目的がなければ「CLSすが
はら」に来ることはないでしょう。
ましてや不安や心配事を少な
らず抱えて来る場所。のんびり樂
しむことなどできるはずもありま

せん。

キッカケはなんだっていいん
です。

ここを知ってもらうこと。興味を
持つてもらうこと。足を運んでもら
うこと。体感してもらうこと。それ
がでけて初めて、CLSすがはらが
地域にある意味があります。

つながれないから何もできな
かったこともある。出会いのが遅
くて、何もできなかったこともあ
る。これで本当によかったのかな
と思ったこともある。本当は私た
ちは常に、地域で暮らす人たち
の“いざというときのちょっと前”
に関わっていきたいのです。

新しい施設を通じて“つながる
前のちょっとした出会い”をつく
つていけたら。たくさんの“ちょっとし
た出会い”とともに、私たちも皆さ
んと一緒にこれからのことを考え
ていけたらと思います。

これまで、これからも、地域に
向いていろんな“コト”を発信し、
この場所と地域に暮らす人々を
つなげていきたいと思います。



▲職員が同僚のために始めた「負けないおにぎり」。新施設を考えるアントレになった。墨さに負け
ないなどテーマを決めたあとにぎりを提供し、ふだん話すことの少ない職員と対話をする良い機会となつている

『私たちの居場所』

てとてのママサロン
中島美由紀さん・山川麻衣さん

子育てサロン
西本サチ子さん・田中民子さん

地域交流施設
「てとての広場」を拡張し
新しい交流スペース
『ONIGIRI BENCH』を建設中の
CLSすがはら。
これまで「てとての広場」を
ご利用いただいだ地域の方に話を伺い
地域交流をさらに広げるヒントをさぐります。
今回は「てとてのママサロン」から中島さん・山川さん
「子育てサロン」から西本さん・田中さんにお越しいただき
話を伺いました。



—「てとての広場」で活動を始めたきっかけは。

ら妻に聞いてみましょうと、そんな始まりでした。

中島 建設中の建物を見て、主人がこちらに「この建物は何ですか」と聞きに行つたんですよ。それで地域の人が利用できる交流施設と分かりました。そのときにスタッフさんから、いい活用法がありませんかと尋ねられて、それな

山川 私は趣味でハンドメイドをやっていて、知り合いにも同じ趣味の方が何人かいたんです。皆さん子育て中だったので、息抜きの場になればと子連れでも参加できるワークショップを始めました。「てとての広場」だから「てとてのママサロン」です(笑)。

西本 助産師だったこともあり、大牟田市の新生児訪問にかかりっていました。その中で遠方から引っ越してきて、頼れる人もなく孤立している子育て中の母親さんが多いなと感じたんです。そこでお母さんたちの交流の場として子育てサロンを開きました。開設当初の会場が使えなくなってしまったときのこと

知り、それ以来使わせていただいている。

田中 私も市役所に勤めていて、西本さんから子育てサロンの手が足りないから手伝ってと声を掛けいただき、一緒に活動しています。

—「てとての広場」を活動の場に選んだ理由や、よかったことを教えてください。

中島 近くに公民館のような施設がないんですよ。以前は自治会の会議も小学校の一室を借りていましたが、こちらの方が近いし利便性もいいので助かっています。

山川 気軽に来られる雰囲気もいいですね。子どもをみんなで見守れる安心感からか、ワークショップには参加しなくとも、その場で会話を楽しむ方もいました。



▲「てとてのママサロン」を主宰する中島さん。子育て中の女性を対象にワークショップを開催している



▲「子育てサロン」代表の西本さん。大牟田市の民生委員として活動している。もと助産師でもある

西本 コロナ禍の前は、あふれかえるほどのお母さんたちに来てもらっていましたね。

田中 それだけこういう場が求められていたんだと感じました。

—今の地域の状況をどう感じていますか。

中島 コロナ禍の影響で「てとての広場」が閉鎖になり、「ここが空いていないのは困る」という声はかなり聞きます。地域の集会所のような役割があるので。

山川 「てとてのママサロン」に関してはコロナ禍の少し前から定期的に開催するのが難しくなっていました。運営するメンバーの子育てがひと段落して仕事に復帰したり、転勤もあったりでみんなの都合が合わず、参加者が少なくなっていたんです。メンバーの入れ替わりがうまくいけ

ばいいんですが、なかなか内容の新鮮味が薄れてきたというのもあるかもしれません。ワークショップ以外のイベントなど、新しい取り組みも必要かなと思っているところです。

西本 コロナ禍で家から出ることも少なくなって、孤立化がますます進んでいるように思います。今はこちらが使えないでの別の施設で子育てサロンを開いていますが、少し狭いこともあり、お母さんたちを積極的に誘えなくなっているのが残念です。

—新しい施設には、いつでも、誰でも立ち寄れて、お茶を飲んだり、本を読んだり、自由に過ごしてもらえる場所を作りたいと思っています。

西本 そういう場所を求めている人は多いと思います。ただ安全

面を考えれば、管理する人は必要ですよね。

—2階は事業所として使いますのでスタッフは常駐します。地域の方に安心してご利用いただける管理運営を模索中です。

中島 例えはヨガを教えていても、空いているスペースは自由に使っていいというような?

—具体的な使い方は地域のご要望を伺いながら検討していくますが、現状のような予約制、入れ替え制にはしない予定です。さまざまな人たちが出会い、新しい交流が生まれることを期待しています。

田中 図書館みたいに、出入り自由ってことなんですね。

中島 そうすると、個人でワークショップを開いて、その場にいる人たちが参加できる、そういうこともできそうですね。予約なしでぱっと来てできる身軽さと、オープンな雰囲気はいいかも。それからもうひとつ、できれば小学生が放課後に、安全に遊べる場所が欲しいです。低学年の子1人を公園や道路で遊ばせるのは心配なんですよ。殊に雨の日は外で遊べない子どもが家にいると、家の中が大変な騒ぎになって苦労するママも多いです(笑)。ここに子どもが来ていれば、見守りの視線もあるから助かります。

西本 それはいいですね。子どもの見守りは必要ですよね。

—さまざまな交流をとおして、自分の“役割”に気づき、やりがいや生きがいにつながる、そんな機会をつくる場でありたいと考えています。



▲西本さんと共に「子育てサロン」を運営している田中さん。もと大牟田市役所職員

田中 なんらかの役割を得るためににはまず人と関わらないといけません。そのためにはとにかく一步、外に出なくちゃいけない。
山川 私自身も家の中に子どもと2人きりで過ごす毎日を送っていた経験があります。サロンの活動には、同じような境遇のママたちが一步外に出るきっかけをつくりたいという思いがありました。体験したワークショップの中から自分の趣味を見つけた人や、子育てしながら自ら他の活動を始めた人がいたのはうれしかったです。

—子育てに追われて、自分が孤独なことに気が付けないほど余裕を失っている人もいるといいます。

西本 本当はそういう人こそ、こちらに来てほしいんですよ。お母



▲中島さんと共に「てとてのママサロン」を運営している山川さん。作業療法士の資格を持つ

さんが悩んでいる、その渦中に関わるのが理想ですが、自ら動かない、動けなくなっている方の情報を得ることは非常に難しく、どうにもできないもどかしさがあります。ネグレクトや虐待などの問題を抱える子どもやお母さんに数多く関わる中で、お母さん一人でどうやって子育てしていたのか、そのときに関わることができたらと思うことが度々ありますね…。

田中 知ってほしいですよね、こういう場所を。知って、まず行ってみようと思わせる何かがあれば。自分の気持ちや境遇に共感してくれる人がいるだけで、心は救われますから。

西本 それがネグレクトや虐待を防ぐことにもつながると思います。

山川 SNSをうまく使って、若いママが行ってみたいと思える発信ができればいいですね。特定のグループに加入しなくとも、ふらっと立ち寄っていいんだと分かれば、ハードルが下がるかもしれません。

西本 地域のつながりも、もっと必要だと思うんです。昔は今よりご近所づきあいがあって、地域の子どもやお年寄りのことなど大いに知っていましたよね。それが見守りになっていたと思います。昔に少し戻るっていうのも、大切ではないでしょうか。



▲昔は当たり前だった地域のつながり。改めて見直すべきときがきているのではと西本さん

田中 なかなか、今は難しい時代ですけどね。

西本 難しいよね。関わりたくないという人もいるし。でもそうしたつながりが孤立をなくし、子どもたちの安全につながると思っています。

|ご意見・お問い合わせは
Eメールにてお寄せください
sugahara@sugahara-hospital.com

△ONIGIRI RECIPES

M

の お に ぎ り あ し



【材料(4個分)】

- ・玄米ごはん
(白米3/4合、玄米1/4合)…300g
- ・さば缶(水煮)……………60g
- ★カレー粉……………大さじ1/2
- ★トマトケチャップ……………大さじ1
- ★ウスターソース……………小さじ1
- ★顆粒コンソメ……………小さじ1/2
- ・パセリ(生)……………適量

管理栄養士Mとておきの『負けないおにぎり』 大切な人に握ってあげたいそんなレシピをお伝えします！

暑い季節になりました。急な気温の変化に体がついていけず、この時期夏バテしてしまうことも少なくありません。食欲がなく、喉ごしの良い麺類ばかりを食べていませんか？麺類だけの食事は炭水化物に偏り、たんぱく質やビタミン、ミネラルが不足しやすいので注意しましょう。食欲増進効果が期待できる香辛料や香味野菜を食事に取り入れてみるのもオススメです！



【作り方】

- ①パセリはみじん切りにする
- ②★の調味料とさば缶を汁ごとフライパンに入れ、さばの身をほぐしながら中火～弱火で水分がなくなるまで炒る
- ③温かいごはんに①と②を入れて混ぜ合わせ、握れば完成です



▲負けないおにぎりは建築現場の皆さんにも押し上げていただきました



パセリは
ミネラルが豊富！
ビタミンC含有量も
野菜の中でも
トップクラスです

複数のスパイスから
作られるカレー粉。
香辛料の辛味や香りには
食欲増進作用が
あります